

世紀転換期の都市 —ウィーンの音楽と美術—

日時：2023年7月14日(金) 16:30-18:00

場所：名古屋大学 東山キャンパス 文学部本館1階 110会議室

https://www.nagoya-u.ac.jp/upload_images/campus_map_jp.pdf B4③

言語：日本語 入場無料・予約不要

講演1：藤井たぎる

「世紀転換期ウィーンの音楽事情
—“芸術”と“娯楽”のはざままで—

司会：古田香織



講師プロフィール：愛知淑徳大学交流文化学部非常勤講師。（「ケーススタディ交流3～ヨーロッパ事情研究」担当）専門は音楽思想。とくに近現代音楽と資本主義の関係性に関心を持っている。比較的最近の論文に「ドンナ・アンナの空想、あるいはドン・ジョヴァンニという名の〈他者〉」、「資本の限界、調性の限界」、「調性の空白、空白の調性」がある。（いずれも多元文化研究会オートル機関誌『Autres：多元文化研究』所収）

講演2：西川智之

「世紀転換期ウィーンの芸術と社会—クリムトやシーレは、どういう時代に生きていたのか—

司会：山口庸子



講師プロフィール：名古屋大学人文学研究科名誉教授。専門は世紀転換期ドイツ語圏の文化・芸術。最近の研究では、「世紀転換期のディレクタントイズム—トーマス・マンとアルフレート・リヒトヴァルクの比較—」（2022年）、「1908年クンスト Schau展における新しい芸術観の萌芽」（2019年）（『ドイツ文学研究』（日本独文学会東海支部）第54号および第51号所収）などで、20世紀初頭のドイツ語圏の芸術運動における女性の役割などについて考察している。

名古屋大学 文学部・人文学研究科 ドイツ語圏文化学

問合せ先：古田香織 [j45914a\[at\]cc.nagoya-u.ac.jp](mailto:j45914a[at]cc.nagoya-u.ac.jp)

山口庸子 [k46439a\[at\]nucc.cc.nagoya-u.ac.jp](mailto:k46439a[at]nucc.cc.nagoya-u.ac.jp)

Facebook:

[at]を@に変えてください。

<https://www.facebook.com/deutscheKulturNagoyaUni/>

